

四旬節第二主日 2021年02月28日 「一緒に祈りましょう！」

皆様、

主の希望、信頼、平和のうちに、信仰はわたしたちの盾です。

02月28日は、「**四旬節第二主日B**」です。

今日、皆さんと一緒に心をあわせて、祈りましょう。

時間がある時は、一本のろうそくをつけて、沈黙し、十字架のしるしをゆっくり行いましょう。

「聖書と典礼2021.02.28」をお持ちであれば、その流れに従って、次にあるコメントを自由にお使い下さい、少なくとも、聖書を開いて、第一朗読 創世記 22.1-18と、「答唱詩編」116 (115)、第二朗読 使徒パウロのローマの教会への手紙 8.31b-34と、マルコによる福音9章 2-10節を読み、個人的に黙想し、神のみ言葉についての分かち合い/共同祈願を行いましょ。

コメント アントワン神父

I- 第一朗読 創世記 22,1-18 について

第一の朗読は先祖アブラハムの献げ物の話です。神はアブラハムとその子孫を選び、約束を結びました。神の約束はアブラハムの息子イサクを通して実現することになります。

そのイサクを献げると言う話は二つのことを意味しています。

第一は当時行われていた人間をいけにえにする習慣を止めさせることです。

「(神は言われた)彼らはベン・ヒノムの谷にトフェトの聖なる高台を築いて息子、娘を火で焼いた。このようなことをわたしは命じたこともなく、心に思い浮かべたこともない。」(エレミヤ書 7.31 / また、出エジプト記 13.11-16)。

第二はその最大の試練を通してアブラハムの深い信仰を明らかにすることです。新約聖書はこのアブラハムに信仰の姿を見えています。初代教会の教父たちはイサクのいけにえの話の中に、イエス・キリストの受難の姿に通じるものまでも見えています。

私たちは試練や困難に対峙する時、神が私たちと共にいつもおられることを、心から信じているでしょうか。

II- 「答唱詩編」116 (115) について

「神が与えてくださった全ての恵みに、どのように答えようか。」

詩編115-116(114-115)は、ユダヤ人によって、毎年「過ぎ越し祭」の記念の食事をする時に「感謝の祈り」として歌われています。

イエスも弟子たちと一緒に過ぎ越しの食事をした時に、この詩編を歌いました。

キリスト者は、毎年「聖木曜日」のイエスの最後の晩餐を記念し、同じようにこの詩編を歌います。詩編115を「感謝の祈り」として、イエスや弟子たちと心を合わせて祈り、黙想しましょう。

III- 第二朗読 使徒パウロのローマの教会への手紙 8.31b-34 について

「その御子(イエス・キリスト)をさえ惜しまずに(十字架の)死に(すべての人々を救うために)渡された方(父である神)」という言葉は創世記 22 章 1-18 節(第一の朗読)と同様のテーマです。神はアブラハムに愛する独り子イサクを生けにえとして捧げることを求めましたか。また、神は正しい人の死、無罪の人の死を求めましたか。「キリストは、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ(復活させ)、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。」(フィリピ 2.8-9)。イサクはアブラハムの信仰によって救われました。私たちは復活されたイエス・キリストへの信仰によって救われています。

IV- マルコによる福音 9章 2-10節 について

「これはわたしの愛する子。これに聞け」(7節)という声を、目の前でイエスが「変容」した時、弟子たちは聞きました。弟子たちは「聞け」という呼びかけにより、いろいろなことを思い起こしました。それは、イエスが誘惑を受けたとき、誘惑するものに「人はパンだけで生きる者ではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」(マタイ4.4)と答えたことです。そして神の言葉「私の口から出る私の言葉もむなしくは、私の元に戻らない。」(イザヤ55.11)、またイエスがファリサイ派の人々に「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」(マルコ7.8)と行ったことなどです。

復活後、弟子たちがイエスの変容を思う時、旧約聖書のモーセ(神の律法全体)とエリヤ(預言者全体)のことだけではなく、イエスの言葉を聞くこと、そしてイエスに倣うことにもなったのです「(神の)言(葉)は肉体となり、私たちの内に宿った。」(ヨハネ1.14)。

「イエスを聞く」とは、心の門を開いて、イエスの教えに耳を傾けること、そしてイエスを見ながら同じように行うことなのです。

私たちもイエスを見ながら、イエスと同じように人に接することが出来ます。例えば「イエスは深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れた。」(マルコ1.41)、「イエスは(その人)と一緒に出かけられていかれた。」(マルコ5.24)、「イエスは弟子に、さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい。(と言われた)」(マルコ6.31)、「イエスは子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」(マルコ10.16)、「イエスは(その人)を見つめ、慈しみ(ました)。」(マルコ10.21)、また、イエスが人々と共に食べ、祈ったことなどイエスの態度もあります。

「聞いて」イエスに倣いましょう。

(沈黙、分ち合いか/共同祈願か)

次に、祈りましょう。(ミサの集会祈願)

「栄光に満ちた神よ、あなたは受難に向かうイエスを「愛する子」として示してくださいました。キリストの言葉を聞き、キリストに従う私たちが、神の子供としての道を歩み続けることが出来ますように。

聖霊の交わりのなかで、あなたとともに世に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

最後に 十字架のしるしをゆっくり行いましょう。「父である神様に感謝」。
新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈りを一緒に祈りましょう。(別紙)

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに満たされますように。
不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるようお導きください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

Prayer for the World Suffering from the New Coronavirus Pandemic

O loving God,
Look kindly upon the world, now in great difficulty
Through the spread of the new coronavirus.
May necessary medical care be given to those who suffer from the
disease.
Guide those who work toward ending the infection.
Protect all healthcare workers and all those who care for the sick.
Welcome the deceased into your eternal kingdom.
Fill them with everlasting peace.
May hands reach out to help everyone facing anxiety and confusion.
God, the source of hope,
Guide us in this crisis
That we may spare no sacrifice to prevent the spread of the infection,
That we may serve everyone in the world,
We ask this through our Lord Jesus Christ. Amen.
Mary, source of hope and comfort, Pray for us in this hardship.

(Approved by the Catholic Bishops' Conference of Japan, April 3, 2020)